

白井 聡 講師

【しらい さとし】

1977年生。一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士(社会学)。著書に、『未完のレーニン ——〈力〉の思想を読む』(講談社)、『「物質」の蜂起をめざして——レーニン〈力〉の思想』(作品社)。



- 近代社会思想
- 比較社会思想

資本主義社会と人間

私は、1917年のロシア社会主義革命を実行し、ソヴィエト連邦を成立させた革命家、レーニンの思想を中心に研究してきました。ソ連邦が崩壊して以来、彼の革命思想は肯定的に言及されることがほとんどなくなりました。そして、資本主義、自由市場経済だけが正解だという考えが、世界を覆い尽くしています。しかし、そうだとすれば、なぜ私たちの生活は失業や経済不安に脅かされ、出口のない状況に追い込まれているのでしょうか？ レーニンを起点として、今日の常識が本当に正しいものなのか、考えてみることに大いに意味がある、と私は思っています。私たちは、レーニンがしたように、もっともっと大胆に考え、行動しない限り、少しずつ不幸になってゆくことにただひたすら耐えるほかなくなってしまうに違いありません。

この高崎経済大学では、私は「近代社会思想」と「比較社会思想」という授業を講義しています。どちらの講義でも意識している大テーマは、「資本主義とは何か」という問題です。資本主義とは、単に市場を中心とする経済制度ではありません。それは、社会全体を組織するひとつのやり方につけられた名前であり概念である、と考えるべきです。ゆえに、それは、私たちの経済的活動(労働や消費)の在り方を規定するだけでなく、ものの考え方や価値観、生活様式、意識といった人間の在り方全般を規定ものとして、現れてきます。近年、その規定する力はますます強まっていると見るべきでしょう。では、その際の力は具体的にどのようなものであるのだろうか、ということをご今までの思想家たちの語ったことを通して考えてゆく、というのが講義の狙いです。

思想や理論は、抽象的であるがゆえに、一般人にとって疎遠なものである、ということとは決してありません。私たちが、普段生活し行動するときに、実際に従っている原理や原則を取り出してみたものが思想や理論にほかならないのです。ですから、思想を学ぶこととは、己を知ることであり、これに無縁であってよい人など存在しません。